

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2004-201934

(P2004-201934A)

(43) 公開日 平成16年7月22日(2004.7.22)

(51) Int.Cl.<sup>7</sup>

F 1

テーマコード (参考)

A 4 5 D 24/00

A 4 5 D 24/00

A

3 B 2 0 2

A 4 6 B 11/04

A 4 6 B 11/04

審査請求 未請求 請求項の数 4 O L (全 6 頁)

(21) 出願番号 特願2002-374594 (P2002-374594)  
 (22) 出願日 平成14年12月25日 (2002.12.25)

(71) 出願人 501048930  
 株式会社 ビクセン  
 東京都千代田区平河町2-1-2  
 (74) 代理人 100094466  
 弁理士 友松 英爾  
 (74) 代理人 100116481  
 弁理士 岡本 利郎  
 (72) 発明者 田島 幸信  
 東京都千代田区平河町2丁目1番2号 株  
 式会社ビクセン内  
 (72) 発明者 柳川 秀輝  
 東京都千代田区平河町2丁目1番2号 株  
 式会社ビクセン内

最終頁に続く

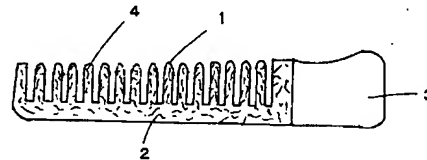
(54) 【発明の名称】 匂い放散型整髪用具及びその製造方法

(57) 【要約】

【課題】 香料を配合した整髪料を頭髮や頭皮に付着させることなく芳香を転写することのできる匂い放散型整髪用具およびその製造方法の提供。

【解決手段】 整髪用具の一部に芳香発生部を設けたことを特徴とする匂い放散型整髪用具およびその製造方法。

【選択図】 図1



## 【特許請求の範囲】

## 【請求項 1】

整髪用具の一部に芳香発生部を設けたことを特徴とする匂い放散型整髪用具。

## 【請求項 2】

くし又はブラシの歯部に芳香発生部を設けたことを特徴とする匂い放散型整髪用具。

## 【請求項 3】

抽出し得る物質を配合した樹脂組成物を用いて、くし又はブラシを成形し、抽出し得る物質を溶媒等で除去することにより微細孔を有するくし、又はブラシとし、容器に収納後、減圧、真空状態とし、次いで香料を容器内に放出することにより、くし、又はブラシに芳香発生部を設けたことを特徴とする請求項 2 記載の匂い放散型整髪用具の製造方法。

10

## 【請求項 4】

抽出し得る物質を配合した樹脂組成物を用いて、管状に押し出し、中空体線状物に成形した後、抽出し得る物質を溶媒等で除去することにより微細孔を有する管状物とし、所定の長さに切断すると共に歯部先端部を閉塞し、丸みを持つように加工してブラシの歯部を形成し、かくして得られたブラシの歯部を、台座部内に芳香剤を含有する織布、不織布を収納してある台座空洞部と連通するように植歯したことを特徴とする請求項 2 記載の匂い放散型整髪用具の製造方法。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

## 【発明の属する技術分野】

20

本発明は、匂いを放散することのできる匂い放散型整髪用具及びその製造方法に関する。

## 【0002】

ストレスの多い現代社会において、香りが癒しを促進する一つの材料として注目され、芳香を生活や仕事の場合において生かすことが課題となっている。

従来芳香剤を利用する方法として、例えば香水やコロンを皮膚に付着させたり、スプレーで衣類に付着させたりしていた。又、頭髮に芳香剤を利用する方法として、特定の香料を配合した整髪料を頭髮や頭皮に付着させて利用していた。

## 【0003】

## 【発明が解決しようとする課題】

本発明は、香料を配合した整髪料を頭髮や頭皮に付着させることなく芳香を転写することのできる匂い放散型整髪用具及びその製造方法に関する。

30

## 【0004】

## 【課題を解決するための手段】

本発明の第 1 は、整髪用具の一部に芳香発生部を設けたことを特徴とする匂い放散型整髪用具に関する。

本発明の第 2 は、くし又はブラシの歯部に芳香発生部を設けたことを特徴とする匂い放散型整髪用具に関する。

本発明の第 3 は、抽出し得る物質を配合した樹脂組成物を用いて、くし又はブラシを成形し、抽出し得る物質を溶媒等で除去することにより微細孔を有するくし、又はブラシとし、容器に収納後、減圧、真空状態とし、次いで香料を容器内に放出することにより、くし、又はブラシに芳香発生部を設けたことを特徴とする請求項 2 記載の匂い放散型整髪用具の製造方法に関する。

40

本発明の第 4 は、抽出し得る物質を配合した樹脂組成物を用いて、管状に押し出し、中空体線状物に成形した後、抽出し得る物質を溶媒等で除去することにより微細孔を有する管状物とし、所定の長さに切断すると共に歯部先端部を閉塞し、丸みを持つように加工してブラシの歯部を形成し、かくして得られたブラシの歯部を、台座部内に芳香剤を含有する織布、不織布を収納してある台座空洞部と連通するように植歯したことを特徴とする請求項 2 記載の匂い放散型整髪用具の製造方法に関する。

## 【0005】

整髪用具としては、くし又はブラシが多く利用されているが、整髪に利用し得るものであ

50

れば特に限定されるものではない。

芳香発生部に用いる芳香剤としては、香料のみならず匂いを分解・除去する消臭剤も用いることができる。

芳香発生部を整髪用具の一部に設ける場合、例えば、くしやブラシの歯部に設けることが好ましい。又、くしやブラシに設ける芳香発生部は、くしやブラシの歯部のみならず、くしやブラシの歯部を固定する台座部にも設けることができる。更に、ブラシ歯部の台座部に芳香発生体を配置し、微細孔を有するブラシの歯部と連通するような構造とすることもできる。

#### 【0006】

芳香発生部に用いる芳香発生体は、例えば、芳香剤を含有する多孔質物質を用いることが好ましい。 10

多孔質物質としては、多孔性金属、多孔性合成樹脂等がある。

多孔性金属としては、アルミナ、シリカアルミナのほか、ステンレス、Co-Cr合金、TiおよびTi合金の焼結体がある。

多孔性合成樹脂としては、ポリウレタンフォーム、ポリイミドフォーム、ポリエチレンフォーム等があり、又、重合体中の溶剤除去法によって得られた多孔質体がある。これら多孔質体は連通気泡を有するものが好ましい。

#### 【0007】

くしやブラシの歯は、頭皮に対して傷つけることなくやさしいことが望ましい。その場合、歯の先端部が丸みをもつように成形すると共に、歯部構成材料が合成樹脂であることが好ましい。 20

合成樹脂により微細孔を有する歯部を成形するためには、合成樹脂の溶剤除去法によって成形することが好ましく、例えば、可塑剤を含む塩化ビニル樹脂によりくしやブラシを成形し、次いで可塑剤を溶出する方法、ポリエチレンにエチレングリコールを配合した樹脂組成物を用いてくしやブラシを成形し、次いで温湯でエチレングリコールを溶出する方法、ポリエチレンに石油オイルを配合した樹脂組成物を用いてくしやブラシを成形し、次いで石油オイルをヘキサンで抽出する方法、ポリエチレンに無機塩を配合した樹脂組成物を用いてくしやブラシを成形し、次いで無機塩を溶出する方法、ポリエチレンに無機塩を配合した樹脂組成物を用いてくしやブラシを成形し、次いで無機塩を溶出する方法、ポリエチレンに無機充填剤を配合した樹脂組成物をチューブ状に押し出し、延伸することによって得られた線状物から歯部を成形する方法等がある。 30

#### 【0008】

具体的には、これら抽出し得る物質を配合した樹脂組成物を用いて、くし、又はブラシを例えば射出成型機を用いて一体として成形し、抽出し得る物質を溶媒等で除去することにより微細孔を有するくし、又はブラシとし、次いで必要に応じて、把持部を樹脂溶液に浸漬するか、樹脂溶液を塗布、乾燥するか、あるいは、樹脂フィルムにより被覆することにより、香りが手へ付着するのを防止することができる。

このように成形して得られた、くし、又はブラシは、容器に収納後、減圧、真空状態とし、次いで香料を容器内に放出することにより、くし、又はブラシの微細孔内に香料を充填することにより、くし、又はブラシの芳香発生部とすることができる。 40

#### 【0009】

他の方法として、抽出し得る物質を配合した樹脂組成物を用いて、管状に押し出し、必要に応じて延伸し、中空体線状物に成形した後、抽出し得る物質を溶媒等で除去することにより微細孔を有する管状物とし、所定の長さ切断すると共に歯部先端部を閉塞し、丸みを持つように加工してブラシの歯部を形成する。かくして得られたブラシの歯部を、台座部内に芳香剤を含有する織布、不織布を収納してある台座空洞部と連通するように植歯しブラシとする。かくして得られたブラシは長期にわたり、匂いを放散することができる。この場合、芳香剤を含有する織布、不織布は交換可能とするために、台座部の一部を開閉可能とすることもできる。

#### 【0010】

50

以下に図面に基づき本発明を具体的に説明するが、本発明はこれにより何ら限定されるものではない。

図 1 は、くしを示す説明図である。

くしは、歯部 1、台座部 2、把持部 3 からなり、歯部 1、台座部 2 は内部に香料を含有する微細孔 4 を有する。香料は、この微細孔から徐々に匂いを放散し、香りが頭髮に移転される。

【0011】

図 2 は、ブラシを示す斜視図である。

ブラシは、歯部 5、台座部 6、把持部 7 からなる。

図 3 は、図 2 における A-A' 断面図である。

10

ブラシの歯部 8 は、微細孔 10 を有する中空体線状物により成形され、先端部を閉塞し、丸みを持つように加工され、台座部 9 に植毛され、台座空洞部 11 と連通している。台座空洞部 11 内には芳香発生体 12 が収納されており、ここで発生した芳香はブラシ歯部 8 の中空部を通り、ブラシ歯部 8 に形成されている微細孔 10 を通過して外部へ放出し頭髮に転写することができる。

台座部 9 に収納された芳香発生体 12 は、台座部 9 の一部を開閉自在とし、交換可能とすることができる。芳香発生体 12 は、例えば、芳香剤を含有する多孔質物質や芳香剤を含有する織布、不織布が用いられる。

【0012】

【発明の効果】

20

本発明により、香料を配合した整髪料を頭髮や頭皮に付着させることなく芳香を転写することのできる匂い放散型整髪用具およびその製造方法を提供することができた。

【図面の簡単な説明】

【図 1】 くしを示す説明図である。

【図 2】 ヘアブラシを示す斜視図である。

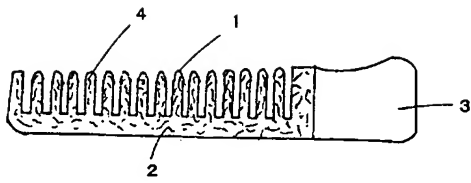
【図 3】 図 2 における A-A' 断面図である。

【符号の説明】

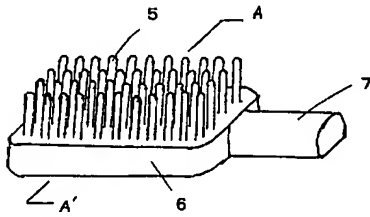
- 1 くしの歯部
- 2 くしの台座部
- 3 くしの把持部
- 4 微細孔
- 5 ブラシの歯部
- 6 ブラシの台座部
- 7 ブラシの把持部
- 8 拡大されたブラシの歯部
- 9 拡大されたブラシの台座部
- 10 微細孔
- 11 台座空洞部
- 12 芳香発生体

30

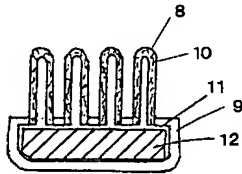
【図 1】



【図 2】



【図 3】



---

フロントページの続き

(72)発明者 漆畑 直樹

東京都千代田区平河町2丁目1番2号 株式会社ピクセン内

Fターム(参考) 3B202 AA11 CA05 GA26

PAT-NO: JP02004201934A  
DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 2004201934 A  
TITLE: SMELL DISPERSING HAIRDRESSING TOOL AND  
PRODUCTION METHOD THEREFOR  
PUBN-DATE: July 22, 2004

INVENTOR-INFORMATION:

NAME	COUNTRY
TAJIMA, YUKINOBU	N/A
YANAGAWA, HIDEKI	N/A
URUSHIBATA, NAOKI	N/A

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME	COUNTRY
PIXEN INC	N/A

APPL-NO: JP2002374594

APPL-DATE: December 25, 2002

INT-CL (IPC): A45D024/00, A46B011/04

ABSTRACT:

PROBLEM TO BE SOLVED: To achieve the transfer of smell without attaching a hair dressing that contains a perfume material on hair or scalp.

SOLUTION: A hairdressing tool is made to be equipped with a smell generating section in its one part. Also the hairdressing tool uses a comb or a brush and the smell generating section is formed on its cobs.

COPYRIGHT: (C)2004,JPO&NCIPI